

同窓會報



〒610-1197 京都市西京区大枝杵掛町 13-6
京都市立芸術大学美術学部同窓会 象の会
発行人：同窓会会長 上村 淳之
TEL/FAX 075-334-2218
携帯／090-7353-6999
http://www.kyogei-ob.jp
E-mail info@kyogei-ob.jp

京都市立芸術大学移転整備の方針決定

京都市立芸術大学は、開学以来134年の歴史を誇り、海外からも高く評価される芸術家を数多く輩出してまいりました。しかし、現在地に移転してから30余年が経過し、本学の施設は、様々な課題を抱えております。これらの課題を解消し、本学が京都のまちとともに発展していくことを目指し、平成25年3月28日、建畠哲理事長から門川大作京都市長に対して、J R 京都駅東側の崇仁地域へ本学を移転・整備すること等を要望しました。

その後、京都市において、京都全体のまちづくり、本学の発展など、様々な角度から検討が行われ、平成26年1月に、門川市長が、本学の要望に応え、本学を崇仁地域に移転整備する方針を決定したことを発表されました。

京都市からは、崇仁地域のまちづくりの進捗状況を踏まえると、キャンパスの移転完成は今後10年程度はかかるとの見込みが示されており、今年度は、京都市とともに移転整備の基本的な方向性を検討し、構想として取りまとめてまいります。

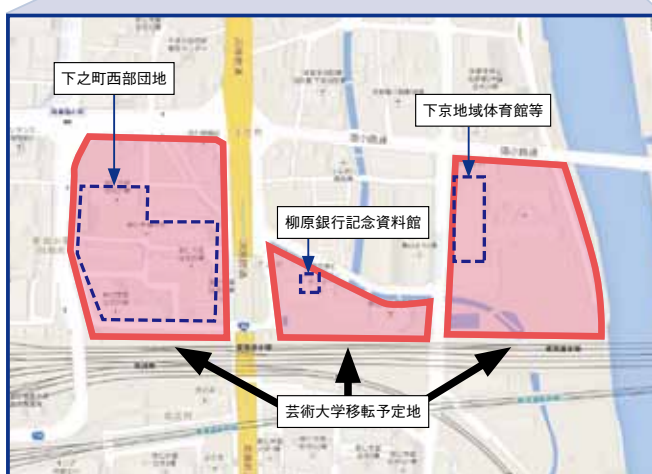
(大学事務局：総務広報課)

- ・下京地域体育館、柳原銀行記念資料館を除く約 38,000㎡の土地を予定。
- ・河原町塩小路南西の区画にある下之町西部団地について、現在地からの移転建替を計画するほか、移転予定地内にある既存の施設をどうしていくかについては、存置や大学施設との合築等を含めて、今後、検討・調整していきます。

「SILENT@KCUA 2014」開催中

東日本大震災支援チャリティーオークションとして4回目となる「サイレントアクア」(大学主催、同窓会後援)が9月13日(土)から9月21日(日)まで京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA(アクア)に於いて開催されます。本展には多くの同窓生も出品されていますので、同窓生や市民の皆様に見ていただき、よい作品があれば是非とも入札(WEBでも入札参加できます)くださいますようお願い申し上げます。

*「SILENT@KCUA 2014」の案内状を同封していますのでご覧ください。



© Google Maps

①

head line

京都市立芸術大学移転整備の方針決定	1
「SILENT@KCUA 2014」開催中	1
2014年度「同窓会役員会」の報告	2
同窓会役員名簿	2
「同窓会展」1970年代を中心に：作品公募	3
同窓会展「予兆」	4
「京芸同窓会アートフェア 2015」(仮称)の開催決定	7
キャリアアップセンターからのお知らせ	7

同窓生だより 私の「アトリエ座」4年間	8
平成25年度末に退任・26年度に着任された先生	10
五芸祭の報告＝総合2位＝	10
芸術資料館収蔵品展「歴史の贈り物」	10
「同窓生名簿 2015」の発行、調査、予約購入について	11
今年も「芸祭」に模擬店<象の店>を出店	11
事務局だより	12
編集後記	12

2014 年度「同窓会役員会」の報告

本年6月29日（日）に開催しました役員会（「京都きよみず花京か」）で、2013年度の事業報告、決算報告や2014年度の事業計画、予算など10の議案が提案・審議されました。その結果、全議案が承認されましたのでその概要をご報告いたします。役員会後の懇親会は、建昌学長や廣野副理事長、南事務局長などの来賓にもご出席いただき、新たな幹事役員も増えて若さあふれる和やかな交流の場（写真）となりました。

【2013年度事業報告】

- ・「芸祭」へ模擬店＜象の店＞を出店
＝成功裏に終わる＝ 11/2～4
- ・同窓会役員（幹事）に平成以降の卒業生28名が新たに就任
- ・「芸大友の会」に団体として新規加入（8月）
＝年会費10万円＝
- ・「音楽学部同窓会真声会」と「同窓会象の会」の連絡会議定例化
- ・「同窓会展」開催（予兆：1960年代を中心に）
2/22～3/9 @KCUA
- ・新卒業・修了生へ「終身会費制」の会費徴収がスタート
＝終身会費3万円＝

【2013年度会計報告】

- ・一般会計＝収 入：7,154,333円
支 出：4,681,430円
差 額：2,472,903円＜次年度へ繰越＞
- ・基金特別＝繰越金：10,300,000円＜前年と変わらず＞
- ・名簿会計＝繰越金：1,313,630円＜次年度へ繰越＞
- ・財産合計＝14,086,533円

【2014年度事業計画】

- ・今秋の「芸祭」にも同窓会＜象の店＞を出店（11/1～3）
同窓生に呼びかけ
- ・「京芸友の会」団体会費を今年も支払う（10万円）



- ・同窓会報と会誌「象」、発展的に統合し「同窓会報 象」として再スタート
- ・「同窓生名簿2015」の発行を目的に編集委員会の設置
- ・「京芸同窓会アートフェア作品展2015」（仮称）実行委員会の設置
- ・「同窓会展」開催（1970年代を中心に） 2/14～3/1 @KCUA
- ・同窓会象の会「会員カード」の作成準備にとりかかる

【2014年度予算案】

- ・一般会計＝収入：8,723,400円 支出：6,723,400円
差額200万円を基金特別会計へ繰入れ
- ・基金特別＝収入：12,302,000円 支出：1,000円
残金：12,301,000
- ・名簿会計＝収入：1,328,360円 支出：654,000円
＜名簿編集費用＞
残金：674,360円

【その他】

- ・同窓会象の会のシンボルマークとロゴの制定
- ・会計運営要項を改正：会計に出納閉鎖期間（4月末まで）を設ける

同窓会役員名簿（2014 年度）

				*印は新幹事			
名誉会員	梅原 猛	中西 進	潮江 宏三				
顧問	中井 貞次	川村 善之					
名誉会長	建昌 哲（理事長・学長）						
名誉副会長	廣野 貴夫（副理事長）	南 寛（事務局長）					
学 内		学 外					
会 長		上村 淳之（1957（昭32）日）					
副会長		望月 重延（1967（昭42）塗） 阿部 緑（1983（昭58）染）					
代表幹事	小山 格平（PD）	野崎 邦雄（1969（昭44）洋）					
会 計	西田 眞人（日本画）	松本 静明（1983（昭58）洋）					
監 査	長谷川直人（陶磁器）	水野 収（1979（昭54）日）					
幹 事	サイモン フィッツジェラルド（油画）	三宅 五穂（1951（昭26）彫）	濱田 昇児（1949（昭24）日）	中井 貞次（1954（昭29）染）	柳原 吉郎（1957（昭32）洋）		
	出原 司（版画）	矢田 精治（1958（昭33）洋）	芦田 裕昭（1959（昭34）日）	伊藤 義明（1959（昭34）図）	舞原 克典（1961（昭36）洋）		
	金氏 徹平（彫刻）	二階堂 忠（1962（昭37）洋）	佐野 賢（1966（昭41）彫）	古川加津夫（1970（昭45）D）	竹内 三雄（1972（昭47）彫）		
	砥綿 正之（構想設計）	中野 順二（1972（昭47）塗）	出井 豊二（1973（昭48）D）	佐藤 敬二（1974（昭49）D）	杉本 清（1974（昭49）D）		
	滝口 洋子（VD）	岩間 香（1977（昭52）日）	酒井 雅子（1978（昭53）洋）	市川 博一（1982（昭57）陶）	児玉 靖枝（1984（昭59）油）		
	藤本 英子（環境D）	*村岡 幸信（1985（昭60）日）	河原 有伽（1986（昭61）版）	*茶谷 文子（1986（昭61）PD）	谷本 天志（1989（平1）油）		
	塚田 章（PD）	安藤 吉準（1989（平1）構）	*辻野 宗一（1990（平2）日）	*新田 恭子（1990（平2）染）	*安井 健二（1992（平4）VD）		
	安井 友幸（漆工）	渡邊 野子（1993（平5）油）	*福岡 崇（1994（平6）PD）	吉原嘉奈子（1994（平6）漆）	*吉岡 佐知（1995（平7）日）		
	日下部雅生（染織）	*新道 牧人（1997（平9）彫）	*森 啓晃（1997（平9）PD）	*福本 双紅（1997（平9）陶）	*梅崎由起子（1997（平9）染）		
	伊東 徹夫（総合芸術学）	*正垣 雅子（1998（平10）日）	東 正子（1998（平10）構）	*川越 里美（1998（平10）陶）	新道 尚美（1998（平10）陶）		
	横田 学（教職）	*北里美絵子（1998（平10）染）	*黒川 彰宣（1999（平11）彫）	人長 果月（1999（平11）構）	*徳永 杏子（1999（平11）VD）		
		小川久美子（1999（平11）染）	*関根 宏祐（2001（平13）日）	*谷口 晋也（2001（平13）陶）	吉岡 千尋（2004（平16）油）		
		毛呂 祐子（2004（平16）芸）	*井手本貴子（2005（平17）日）	*久門 剛史（2005（平17）彫）	*佐野 曉（2005（平17）漆）		
		*古川きくみ（2007（平19）環境D）	*公庄 直樹（2007（平19）漆）	*小西 愛子（2008（平20）環境D）	*中村 潤（2009（平21）彫）		
		*村田ちひろ（2009（平21）染）	*萩原 佳奈（2010（平22）漆）	*濱野 志織（2014（平26）芸）			

「同窓会展」1970年代を中心に：作品公募

京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA では、日本の美術の歩みを本学美術学部同窓会員の作品によってたどる展覧会企画『戦ったあとの美術 — 1950年代を中心に』（2013年3月）、『予兆 — 1960年代を中心に』（2014年3月）の続編として、1970年代に焦点を当てた展覧会を開催いたします。

高度経済成長を達成した日本を象徴するイベントとなった1970年の日本万国博覧会では、「人類の進歩と調和」をテーマに掲げ、総合プロデューサーの岡本太郎氏をはじめ、多くの芸術家たちが関わりました。また、この万博への熱狂、そして反発も相まって、さまざまな分野の若き表現者たちが、挑戦的な作品を数多く発表していきます。それには、豊かな社会が現実のものとなり他者との差異化、個性的な消費という趣向の変換がみられた社会背景も少なからず影響していたと言えます。本展では、若者の消費文化が新しい表現を牽引し、表現の方法も一気に多様化していったこの時期に、京都市立芸術大学にて教鞭をとった教員や学生たちの作品を展覧します。この頃本学では、総合基礎実技のカリキュラムが導入されました。さまざまな表現領域に触れることのできる新たな環境は、まさにこういった時代の兆候を反映していたのではないのでしょうか。本展が、いまなお新鮮な驚きを感じることで、情熱と野心に満ちあふれた1970年代を振り返り、また改めて捉え直す機会をもたらすものとなれば幸いです。

日 時：2015年2月14日（土）～3月1日（日）
月曜休館 入場無料
11:00～19:00（最終入場は18:45まで）

会 場：京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA 1
＜京都市中京区堀川通御池北東角＞

主 催：京都市立芸術大学
京都市立芸術大学美術学部同窓会象の会

作品内容：1970年頃から1980年頃の間に関西京都市立芸術大学に在籍／在職していた学生・教員による、当時の作品（作家所蔵作品、大学の芸術資料館所蔵作品）の公募展示

作品点数：約20点程度

関連行事（予定）：2月14日（土）
15:00～16:00 会場内でギャラリートーク
16:00～18:00 オープニングセレモニー

作品公募について

● 公募対象者

- ① 同窓会象の会の会員＝正会員としての義務（会費納入）を果たしている会員、特別会員
- ② ①の中で1970～80年間で間に在学された方で、1970年代に制作された自己の作品を準備できる方

● 公募対象の作品

1970年代に制作された作品。ジャンルを問いません。
作品サイズは、主催者が展示可能と認める範囲（平面は30号程度、立体は50cm立方以内）とします。既発表作品も可とします。
＊当該年代制作の作品が、大学の芸術資料館に買上げ作品等で所蔵されている場合は、その作品で応募・展示することができます。

● 公募の期間

2014年10月1日～12月24日まで

● 応募方法

公募期間内に、所定のエントリー用紙（同窓会ホームページから取得可能）に必要事項を記載し、郵便、FAX、メールなどで同窓会象の会事務局に提出ください。ホームページからエントリー用紙を取得できない場合は同窓会象の会事務局までご請求ください。
エントリーいただいても、状況によって主催者で調整するこ

とがあります。申込多数の場合は、原則として卒業年度の早い方を優先します。

ご出品いただく方へは、2015年1月10日までに正式に出品申込受付証をお送りします。（この証で出品が確約されます。期限までにお手元に届かない場合は事務局へ照会ください）

● 出品料

無料（作品の搬出入に要する費用は出品者でご負担ください）

● その他

搬出入などの詳細案内は出品受付証と一緒に送付します。
展覧会の目録などは主催者で用意し出品者、入場者に配布します。
展覧会のDMは主催者で用意し事前に出品者に配布します。
応募者が少なく、展覧会の開催に支障をきたす場合は、主催者の判断で別途出品者を依頼する場合があります。
出品者にはオープニングの「イベント」に参加いただくことがあります。

● 問合せ先

美術学部同窓会象の会事務局 担当／開本恭子
TEL/FAX 075-334-2218
携帯電話 090-7353-6999

同窓会展「予兆」 1960年代を中心に

会 期＝ 2014 年 2 月 22 日（土）～ 3 月 9 日（日）
 会 場＝京都市立芸術大学ギャラリー@ KCUA(アクア)
 主 催＝京都市立芸術大学
 京都市立芸術大学美術学部同窓会象の会
 協 力＝京都市立芸術大学芸術資料館

日本の美術の歩みを本学美術学部同窓会会員の作品によってたどる展覧会の第3回展です。本展では1960代に焦点をあて、日本が戦後の経済復興から世界的にも輝かしい進展を遂げつつあった高度経済成長の到来に伴い、文化形態も「生産」から「消費」に大きく移行する前夜にあたる時代、アートが感じた「予兆」をテーマに19人の同窓生作品19点（写真）を展示しました。



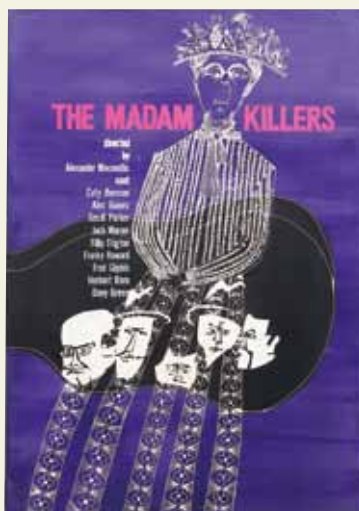
小林一夫 「ポスター（赤玉ワイン）」



辻 浩 「道化」



舞原克典 「滞船」



岡田和也 「ポスター（マダムキラー）」



花山智久 「凝」



吉田武夫 「立体移動仮設便所」



皿谷 実 「角の花器 (A)」



渡辺信喜 「軍雞」



越田英喜 「ファンタジーと科学」



佐野 賢 「角砂糖の理想的な溶け方」



小尻多賀子 「織「壁掛」：サーカス」



望月重延 「蝶」



松谷昌順 「イメージ・ウラ・オモテ」



宮村 長 「風景」



内山政義 「青釉大鉢」



北原昭一 「門」



森岡和代 「織によるオブジェ」



八木厚子 「扉」



岡崎秀樹 「黒漆花器」

「京芸同窓会アートフェア 2015」（仮称）の開催決定

京都市立芸大が京都駅東側に移転するプランが昨春から正式に動き始めました。同窓会では、これを好機と捉えて同窓生の拠点となる施設を大学内に設置していただけるよう強く要望したいと考えています。また大学移転を支援する具体策として外部資金支援の形で大学に一定の協力をして行きたいとも考えています。その資金獲得のため、同窓生に広く呼びかけて各位の作品を提供いただき、オークションにかけて原資を捻出したいと考え、標記の「アートフェア作品展 2015」（仮称）開催を本年の役員会で決定しました。

今後はアートフェア作品展開催に向け、計画を練り上げるための実行委員会を立上げまして本年内に開催概要を決め、来年3月の「同窓会報 象」で皆様にお知らせするようにしたいと考えています。また同窓生各位の作品が数多く寄せられることを切に希望しており、大学移転の一助として是非ともご協力くださいますようお願い申し上げます。現時点での目的、内容は次のとおりです。

- 目 的** ①大学移転への支援資金確保
②同窓会活動活性化資金の確保

開催時期：2016年2月中旬～下旬、他

開催場所：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA（中京区堀川通御池北東角）、他

募集作品：ジャンルを制限せずに広く同窓生に出品を呼びかけますが、作品のサイズ、重量、展示方法などは一定の制限を設ける。（詳細は後日）

キャリアアップセンターからのお知らせ

2012年4月に設立した「キャリアアップセンター」は、一貫して「現代をたくましく生き延びる」をテーマに、在学生・卒業生のキャリアサポートの充実を図ってきました。

在学生、卒業生に向けた芸術・就職活動支援において、専門のアドバイザーが、京芸生に向けたさまざまなアプローチを開拓し、各種企画を実施しています。

3年目に突入した今年度は、キャリアの多様なあり方を考える“きっかけ作り”のための企画を開催するとともに、京芸生に必要な情報の集約と発信の場となるよう、活動して参ります。

2014年度の活動について

（主催イベント）

ポートフォリオセミナー / 文章作成講座（全3回） / 外部講師によるレクチャー&ワークショップ「ナリワイをつくる」 / 芸大祭模擬店 / 海外へのアプローチ（全2回） / アーティスト・イン・レジデンス報告会 / 卒業生による講演会「10年後の京芸生」 / 確定申告入門講座 / THE GIFT BOX（作品の展示販売&コンサート） / 就職ガイダンス / 百貨店でのイベント / ARTISTS@HORIKAWA（ギャラリー@KCUAとの共催企画）

（協力企画）京都成章高等学校への作品レンタル / ART OSAKA2014 他



外部講師によるレクチャー&ワークショップ「ナリワイをつくる」のワークショップ風景

キャリアサポートの充実に向けて、学外での活動の機会や就職に関する情報、学生とのランチミーティングの提案などなど、諸先輩方からの情報・ご意見をお待ちしております。

美術学部同窓会の皆さまには、同窓会と学生とを繋ぐ大学内の窓口として、キャリアアップセンターをご活用いただければ幸いです。

【お問い合わせ】

TEL:075-334-2211

Mail:c-up@kcua.ac.jp

HP:<http://www.kcua.ac.jp/career/>

facebook:<https://www.facebook.com/kcua.cup>

twitter:https://twitter.com/KCUA_c_up



右から筆者、
橋本久子、
真野とおる



舞台写真はいずれも「真田風雲録」

私の「アトリエ座」4年間 ＜昭和38～41年＞

黒川 彰夫 (1967年：西洋画卒)

8

「本日は、ようこそアトリエ座40周年にお出かけ頂きありがとうございました。この忠治の面玉の黒いうちは、皆様のお体に指一本ささせるこっちゃありません。どうぞ最後までごゆっくりと、お遊びなさって下せえまし」

この台詞は、アトリエ座創立40周年記念公演、村山知義作「国定忠治」での忠治役（筆者）が劇中賭場開帳場面で述べたものです。

1963年、美大入学とともに同期のデザイン科の斎藤正明、坪内成晃、石村徹之、林 鉦の各氏と洋画の太田 洋氏とで座員になりました。

1回生時の出し物は、寺山修司作「血は立ったまま眠っている」で当時の世相を反映させた、反体制的な臭いのするものでした。棒読み調の台詞を取り入れた新形式のもので、新聞の大学演劇評にも取り上げられました。京都会館第2ホールでの1回目の公演には、作者の寺山修司氏が駆けつけてくださり色々とおアドバイスをしていただきました。

寺山先生は、ご自分の処女戯曲が学生演劇に取り上げられた事に非常に満足され、熱っぽく語っていただきました。劇中の河田孝郎氏（1964年西洋画卒）の歌うブルースが印象に残っています。

2回生時の出し物は福田善之作「真田風雲録」を上演することになり、2年続けての反体制ものとなりました。福田先生も「学生演劇がこれを取り上げるとは、勇気に感心もし呆れもしたものである」と公演によせての文章の中で書かれていました。この出し物はテンポもよく、アトリエ座一同ノリに乗り、1回目の公演が終わると各自笑いどころを得て、2回目の公演では、

個性のぶつかり合いでアトリエ座らしい楽しいものとなりました。私も真田幸村を演じ、舞台に出ずっぱりでしたが、あっという間に終わった気がしました。孤独感を漂わせた大村貞一氏（1966年日本画卒：亡）の佐助、大野修理役の小田部正邦氏（1964年日本画卒）の名演技、そして秀頼の林 鉦氏、淀君の松本光代氏（1965年日本画卒）、千姫の上野千賀子氏（1968年デザイン卒）3人の掛け合いが笑いを誘いました。演出の村上誠治氏（1966年日本画卒）は公演後「3回目の公演があったら完全な喜劇になっているところだった」と苦笑いでした。

そして、3回生時の出し物が先に述べた「国定忠治」でした。この作品は長らくアトリエ座の先輩諸氏が上演を待望していたもので、40周年記念公演に相応しい出し物となりました。初座員になった1回生連中の中には「何これ!」と思った者も多かったと思いますが、兎に角やってのけてしまうのがアトリエ座の強みだと思いました。非道の世界への批判を根底に置きながら忠治を描き、社会からはみ出した者の惨めさが、最後の「磔」に象徴された作品でした。忠治の妾役、小阪早苗氏（1969年デザイン卒）の好演があり、初参加の宮村 長氏（1968年西洋画卒）の「親分お逃げなせい!」の台詞は今も耳に残っています。そしてアトリエ座のOB先輩、川勝英十津氏（1964年西洋画卒）、小田部正邦氏、中川皖司氏（1964年デザイン卒）、宮西東洋雄氏（1964年日本画卒）、河田孝郎氏が、検視役人、捕りに扮して参加いただき、大先輩吉田義夫氏（1931年絵専卒：俳優：亡）などが創立したアトリエ座40周年記念公演を大成功に打ち上げることができました。

4回生時の出し物は、プレヒト作、岩淵達治訳「家庭教師」



「血は立ったまま眠っている」左端筆者



「国定忠治」右から筆者、松本光世、小坂早苗

でした。私の在籍した4年間の中で初の翻訳もの、しかも演出を任せられ、読めば読むほどブレヒト作品の難しさを感じました。そんな中、プロデュースの努力で京都に滞在中の千田是也氏（舞台俳優：演出家）に色々とお話を伺うことができました。その中で、千田先生のブレヒト論、舞台俳優としての理論的な思考の深さ、また我々学生に正面から対応してくださった心の広さを感じました。そのうえ、上演に対するいくつかのヒントを頂き少し気を楽にして稽古に入ることが出来ました。長台詞の多い中、ロイファー役の和田守弘氏（1967年陶磁器卒）、ブリッツァーのおかみと女中の二役の松本光代氏（1965年日本画卒）の演技が光っていました。

アトリエ座も公演の度に赤字が出ると、座員はアルバイトに駆り出されました。着ぐるみを着てデパートの入口で子供たちに風船を配ったり、Tシャツ売り場でワンポイントデザインを描いたり、お寺の天井欄間の絵を描いたり色々やりました。また夏休みには1、2回生を中心にメンバーを結成し、丹後地方公演があり、1回生時はチェホフ作「路上」、2回生時は木下順二作「赤い陣羽織」、3回生時は木下順二作「夕鶴」、榎原政常作「袋の女」、4回生時は有島武郎作「ども又の死」を上演しました。

4年間アトリエ座に在籍し、感じたことは各担当がはっきりと分担されていたことです。それにより、役者は役者に、スタッフは各持ち場に専念でき、公演に向けて各々が力を発揮できたことです。公演が近づくと旧東山の校舎の中庭に大きなパネルが何枚も引き出され、装置の面々がバケツで絵の具を蒔き散ら

しながら着色していきます。何回となく塗り重ねられた色は、深いブルーグレー、少し汚れた赤紫、青紫、グリーングレーなどの色合いで、見た目には美しいと言えない色ばかりでした。それが、舞台上で照明を受けると何とも言えない美しい色合いに変身したものです。我々役者は、それをバックに演技しているため、上演中はその美しさを見ることが出来ませんでした。公演後に写真で見てその素晴らしさに感動したものでした。評判高いアトリエ座舞台集団の装置の前で芝居が出来たことは幸せなことだと思っております。装置のチーフは笹尾周平（1965年西洋画卒：亡）、高木基宏（1966年デザイン卒）、太田 洋、三上 浩（1968年デザイン卒：亡）各氏が年々担当しており、音はいつも内海和雄氏（1967年デザイン卒：亡）が受け持っていました。そして毎公演に演出のアドバイスをさせて頂いていた先輩宮村一幸氏（1956年中退）の存在は大きなことでした。その時々芝居の本筋を演出して頂き、作品に命を吹き込んでくれました。

この様な多くの人の協力無しには、4回の公演も特に40周年記念公演も成し得なかったと思っております。4年間のアトリエ座在籍は、何か大きなものを私に与えてくれました。その後のアトリエ座に関しては、数年続いたものの大学紛争、大学移転問題などがあってだんだん活動を聞かなくなりました。しかし、アトリエ座OBによる「美大アトリエ座ひねた会」結成により、その火は消えることなく燃え続けています。

丹後地方公演



平成 25 年度末に退任・26 年度に着任された先生

▼平成 25 年度末（平成 26 年 3 月末）で退任された先生

美術科	油画専攻	鶴田 憲次 教授
	版画専攻	木村 秀樹 教授
デザイン科	環境デザイン専攻	池上 俊郎 教授
工芸科	陶磁器専攻	叶 道夫 教授
総合芸術学科	総合芸術学専攻	渡邊 眞 教授
学科	哲学	魚住 洋一 教授

▼平成 26 年 4 月着任された先生

美術科	油画専攻	伊東 存 講師
	版画専攻	吉岡 俊直 講師
工芸科	陶磁器専攻	永樂善五郎 特任教授
総合芸術学科	総合芸術学専攻	砂山 太一 特任講師

▼平成 26 年 9 月着任された先生

デザイン科	ビジュアルデザイン専攻	楠田 雅史 講師
-------	-------------	----------

▼平成 26 年度末で退任予定の先生

美術科	日本画専攻	宮本 道夫 教授
総合芸術学科	総合芸術学専攻	定金 計次 教授

※ 9 月現在退任記念展は予定されておりません

五芸祭の報告 = 総合 2 位 =

第 60 回五芸祭大学の体育・文化交歓会が 5 月 22 日（木）から 25 日（日）の四日間 愛知県立芸術大学にて行われました。今年の愛知大会は「愛 dear」と言うテーマで、意味は主催大学愛知の「愛」から、また家族愛・友愛等いろいろな意味を持つ「愛」と親愛なる人へと言う「dear」を繋げて「愛 dear」とされたそうです。「愛 dear」はアイディアと読み、英語の「idea」アイデアの意味も含まれているとの事です。

10 体育競技はホスト校の愛知県立芸術大学グラウンドや愛・地球博記念公園、猿投コミュニティセンター等を会場にラグビー、

サッカー、バドミントン、剣道競技等々が戦われ、京都芸大は、総合 1 位の東京藝大に僅差で敗れましたが総合 2 位と健闘いたしました。ちなみにラグビーと剣道は 1 位、硬式テニス、バスケットボールとバレーボールは 2 位の成績です。文化交歓会に於いても作品展を初めアートマーケットや五芸祭コンサート等が行われ、京芸からも多くの教職員が参加し盛況のうち無事に本年度五芸祭は終了いたしました。

いよいよ来年度（平成 27 年度）五芸祭は 4 年ぶりに京都芸大で開催される予定です。（五芸祭実行委員）

芸術資料館収蔵品展「歴史の贈り物」(2014.9 ~ 2015.3)

京都市立芸術大学芸術資料館の収蔵品は、本学における教育史の中で様々な機会を得て蓄えられました。今年度は会期を 5 回に分けて、学校史の語り部と言える資料の中から主なものを紹介しています。後期の展示は、下記の通りです。この機会に、先達たちが残した様々な「歴史の贈り物」をご覧いただき、それにより得た感動を未来への新たな贈り物として語り継いでいただければ幸いです。皆様のご来館をお待ちしております。

第 4 期 「精霊のかたち - パプアニューギニアの絵画と土器 -」 9 月 23 日（火）～ 10 月 26 日（日）



原始美術の宝庫として知られる、パプアニューギニアのセピック川流域。昭和 44 年に本学美術学部教授の満岡忠成を隊長とする美術調査隊

が現地で収集した資料約 320 点を、当館で「ニューギニア民族資料」として所蔵しています。

これらの資料の中から、日用品である土器と樹皮絵画を中心に展示します。

第 5 期 「写生に学ぶ - 日本画と素描 -」 11 月 1 日（土）～ 12 月 7 日（日）

近代に生まれた京都の日本画は、写生を基礎として開花しました。本学の前身である京都市立美術工芸学校・同絵画専門学校では、運筆や臨模などの技術教育とともに写生教育が重視され、当館には多くの写生資料が遺されました。

両校での写生教育の成果である、明治・大正期の日本画卒業作品と写生資料を紹介します。



「同窓生名簿 2015」の発行、調査、予約購入について

2015年7月1日の大学創立記念日を目標に「同窓生名簿 2015」が発行できるよう、これから編集委員会を立上げ取組みをスタートさせます。基本的には従来から5年ごとに発行してきた「同窓生名簿」のスタイルを踏襲し、前回の名簿発行以降に入学・卒業・修了された同窓生の方々と追加するとともに、様々な異動の事実が反映された、同窓生や大学関係者に役立つ名簿づくりを目指したいと考えています。一方、個人情報保護など当初からの課題も再度議論し、可能な限り個人情報を保護する観点から改善していきたいと思っております。総務委員会（正副会長、代表幹事）では今のところ名簿発行を継続する方向で確認しています。

来年3月発行の「同窓会報 象」と一緒に、名簿に掲載する同窓生の基本データを記載した返信用葉書を同封して送りますので、皆様にはデータの確認と誤っている部分は訂正して返信をお願いします。併せて「同窓生名簿2015」の購入希望についてもご回答くださいますようお願いいたします。新しい名簿は1冊3,500円（送料込）で頒布する予定ですが、返信葉書で事前予約いただいた方には3,000円の特別価格で頒布いたします（来年5月末消印まで有効）。出来るだけこの機会に購入予約ください。

「同窓生名簿2015」掲載の広告を募集。 同窓生皆様のご協力をお願いします。

来年7月発行予定の名簿に広告掲載をお願いします。

掲載料は前回名簿と同様、

B5 版 全面 7 万円

B5 版 1/2 面 5 万円

B5 版 1/3 面 4 万円

B5 版 1/4 面 3 万円

B5 版 1/8 面 2 万円

とします。各サイズとも同窓生の紹介（広告に記載）があれば**1万円引き**とします。同窓生の皆様はもとより、ご紹介いただける広告主がございましたら是非とも事務局までお知らせください。宜しくお願いいたします。

今年も「芸祭」に模擬店＜象の店＞を出店

昨年に引き続き、卒業生、先生方、在校生の交流の場を目指して美術学部同窓会＜象の店＞が開店いたします。

あたたかい飲み物、湯豆腐などを用意して、皆様のご来店をお待ちしております。本会報に添付の＜ワンドリンク券＞を持って洛西大枝の京都芸大へ馳せ参じてください。同窓会は貴方をお待ちしています。

模擬店＜象の店＞の場所、メニューなど詳細は次の通りです。

場 所：京都市立芸術大学構内 中央棟 2 階南側出入口付近（無料券裏面参照）

開店日時：11 月 1 日（土）、2 日（日）、3 日（月、祝）

※12時～20時（3日は18時閉店）

＜芸祭は11時～20時開催の予定＞

メニュー：湯豆腐（協力 京とうふ藤野）日本酒 ビールなど

！車でのご来場はご遠慮ください。



芸祭のテーマ「ビーヒーロー/BE HERO」

それぞれの個性と技を披露し、互いを、あるいは来客を魅了するヒーローになって欲しい。そんな思いから本年度の芸祭のテーマを決定しました。

「ヒーロー」と言うと、子供のころに憧れていた特撮ヒーローをイメージされますが、“子どもっぽさ”、その無垢な熱い童心を忘れない学生も先生も大いに盛り上がる京芸ならではの少し変わった面白い芸祭ができるよう芸祭委員一同努めてまいります。

卒業生の皆様もぜひご来場ください。

2014年度芸大祭実行委員会 委員長 古賀福太郎

キリトリ線

平成 26 年度京都市立芸術大学祭 あたたか〜い湯豆腐のお店

美術学部同窓会「象の店」ワンドリンク無料券

京都市立芸術大学構内 中央棟 2 階 南側出入口付近

平成 26 年 11 月 1・2・3 日 開店時間（予定）12:00～20:00（3 日は 18:00 閉店予定）

* 本券は美術学部同窓会「象の店」でのみ有効です。芸祭は 11:00～開催予定。

事務局だより

■「ニセ名簿業者」にご注意を

2015年に「同窓生名簿2015」を発行する予定ですが、これから同窓会の名を騙って、名簿への氏名掲載や購入を言葉巧みに勧誘してくる事が今後増えてきます。同窓生の皆様には決して騙されないようご注意ください。

同窓会からの案内は、同窓会の住所・電話番号が正しいことを必ず確認してください。不審な点は同窓会へ電話などでお問合せください。

〒610-1197 京都市西京区大枝杵掛町13-6

京都市立芸術大学内

電話 / fax : 075-334-2218

携帯 : 090-7353-6999

■年会費納入のお願いと納入済みの印字について

同窓会は皆様の会費によって運営されています。年1,000円、2年分まとめて2,000円として納入をお願いしております。すでに2014・2015年度会費を前納されている方は「2014・2015年度会費 ◎」と印字されています。なお、「終身会費」を納入される方は、終身会費移行の残りの金額を印字していますので、同封の振込用紙に金額などを記載して納入をお願いします。

■満80歳以上の同窓会員 会費免除について

同窓会費を過去10年間、継続して納入いただいた満80歳以上の会員で、会費免除を希望される方は、その旨、同窓会事務局へお申し出ください。

2014年度以降の会費が免除されます。

■同窓会の後援名義使用について

同窓会費を完納されている会員が主催する作品展など（個展、グループ展等）で同窓会の後援名義使用を希望される方は同窓会事務局へご連絡ください

■同窓会のホームページがパソコンだけでなく、スマートフォンから見やすいレイアウトになりました。

<http://kyogei-ob.jp/>

■氏名、住所、電話、FAXなどを変更されたときは連絡をお願いします。

お忘れになると会報などの諸情報をお届けできなくなります。表紙ページに記載の連絡先へ郵便、FAX、メール、いずれかの方法をお願いします。ホームページの住所変更フォームからでも変更できます。

編集後記

●同窓会報は、本号から、従来の「同窓会報」と「同窓会誌象」を統合し、「同窓会報 象」としての再スタートを切り、従来どおり9月（秋）と3月（春）の年2回発行してまいります。春の号は「会誌 象」の流れを引き継ぐ形で、大学の「いま」を切り取った内容を中心に紹介していこうと思っています。どうぞお楽しみになさってください。

●大学の「都心回帰」が昨今の流れのようですが、我が母校もそれに違わず、移転先である京都駅東側を、本学を核とした京都における新しい芸術の中心地とすべく、一層の飛躍をめざした移転計画の動きが少しずつ具体化してきています。同窓会としましても移転を応援し、今後、皆様にも同窓会報で移転の進捗状況をお伝えできれば、と考えております。

●劇団『アトリエ座』は、今熊野学舎時代の学生にとって、座員でなくとも美大時代を象徴する大きな存在であり、まさしく青春そのものであったそうです。1960年代、『アトリエ座』黄金時代の思い出の原稿を、黒川彰夫さんにお問い合わせいたしました。懐かしい写真もご提供していただきまして有難うございました。

●来年は戦後70年、我が母校でも多くの画学生が戦地に赴き、残念ながらその多くの方々が無言で帰国された悲しい歴史を持っています。このような歴史を二度と繰り返さないためにも、その時代を思い起こし、語り継ぐことが大切と考え、来年の会報ではこのことに焦点を当てたいと考えております。

（会報編集委員：阿部 緑）

JR京都駅北側バスターミナルC2のりば

京阪京都交通バス 2・14・28 系統に乗り、芸大前（約45分）下車。徒歩すぐ。

阪急桂駅東口

京阪京都交通バス1・2・13・14・25・28 系統に乗り、芸大前（約20分）で下車。徒歩すぐ。

JR桂川駅・阪急洛西口駅

京阪京都交通バス11A系統（京都成章高校前行き）に乗り、芸大前（約15分）下車。徒歩すぐ。

